

彩の歳時記

平成二十一年 七月

天の川 榊の音聞こゆ 彦星と織女と 今夜逢ふらしも

詠み人知らず

「天の川の船のかいの音が聞こえている。彦星と織姫が今宵会っているのだろうか。」

万葉集には百三十首余りの七夕の歌がありますが「七夕」そのものを歌っているものよりも、それになぞらえ、男女の恋が詠まれています。**牽牛(けんぎゅう)と織女(しよくじよ)**の二つの星が年に一度だけ逢うという中国伝説と日本の**棚機女(たなばたつめ)**と男性神の話とが重なり定着したようです。
ちなみに、**笹は精霊(祖先の霊)**が宿る**依代(よりしろ)**が起源だと考えられています。

七月の異称

文月〔ふづき・ふみつき〕 夜が少しづつ長くなり「文を開く」「本を読む」のに良い月。

七月の暦

一日 山開き 富士山・月山・大山など円錐形の山は歌などにも多く詠まれ、霊山として**山岳信仰**の対象として崇められことから、**山開き**の神事が行われる。

二日 半夏生(はんげしょう) **雑節** 「**鳥柄杓(からすびしゃく)**・**半化粧(葉の半分が白くなることから)**」が生える時期。夏至から十一日目。蛸(稲の根が蛸の足のように根づくように)を食べる習慣もある。

六く八日 **朝顔市**・入谷鬼子母神(真源寺)など。

七日 **小暑(しょうしょ)** **二十四節気** 日脚は徐々に短くなるが暑さは本格的に。

七夕

七夕や まだ指折って 句をつくる

秋元不死男【1901 - 1977】

九く十日 **ほおずき市** 四万六千日といわれる観音詣の縁日と盆の草市が結びついたもの。

十二日

蓮始咲(雑節)

春の花見・秋の紅葉狩・夏の蓮見と言われ、早朝に開き、昼下



がりに閉じる蓮の花は、極楽浄土に咲く花として、その儚さと気品が愛でられた。上野不忍池の蓮は江戸時代、文人墨客に愛され、江戸名所囃会に描かれた。七月下旬頃から見ごろ。十三日 盆の入り・迎え火。この頃、梅雨明け。十六日 盆送り火・精霊流しを行う所も。藪入り。

十七日

京都祇園祭・山鉾巡行・**祇園神(スサノオ・牛頭天王)**を祀る**祇園神社(八坂神社)**の**祭礼**、千年余の歴史を持つ。**大阪の天神祭**、**東京の山王祭(あるいは神田祭)**と並ぶ**日本三大祭の一つ**。

十九日

土用(どよう) **雑節** 立秋の直前までの期間。「**土用丑の日**」とはこの期間中の「丑の日」。

二十日

海の日 **国民の祝日** 世界の国の中で『**海の日**』を祝日としているのは唯一日本だけ。

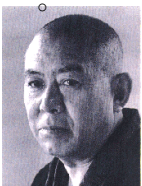
二十三日

大暑(たいしょ) **二十四節気** この日から立秋までが名実ともに暑さの盛り。

三十日

谷崎忌

明治末期から戦後に活躍した小説家**谷崎潤一郎【1886～1965】**の忌日。



永井荷風【1879～1959】と共に**耽美主義**を代表する作家。佐藤春夫との妻譲渡事件や代表作「**細雪**」のモデル、松子夫人との再婚など私生活においても波乱に富む。日本橋蛸殻町に生まれ、関東大震災の恐怖感から関西の芦屋(昭和6く昭和11)に移住、ここに記念館がある。「**痴人の愛**」「**春琴抄**」源氏物語の現代語訳など。疎開先岡山から京都、熱海と移り住んだ。

七月の歌

河は呼んでゐる 詞 水野汀子 曲 ギイ・ベアール

1957年の仏映画「Jean VIVE」の主題曲。美しい南仏プロヴァンス地方を流れるデュランス河畔の明るい農村風景を舞台に、一人の少女の心の成長を描いた佳作。主題曲は「河は呼んでゐる」だが、映画の邦題は「河は呼んでゐる」。公開当時、シャンソン歌手で「あんみつ姫」の中原美紗緒【1931～1997】が歌ってヒットした。

そよふく風に 小鳥の群は
河の流れにささやきかける
ごらんよあの空しあわせの陽が
あなたの上にもほほえんでいる
野ばらのかげに 小鳥はいこい
森の泉もしずかに眠る
ごらんよあの河 ささやく声が
わたしの胸にもよびかけている

